

発達支援センター通信

◆野洲市発達支援センター TEL587-0033、FAX587-2004

広報「やす」:2023年7月号掲載

社会的コミュニケーションの苦手さへの支援

自閉スペクトラム症の方の中核症状といわれるものの一つに、社会的コミュニケーションの難しさがあるといわれています。コミュニケーションと聞いた時に、はじめに思い浮かぶのは『ことば』だと思います。実際、乳幼児期の『ことばの遅れ』から、自閉スペクトラム症の疑いを持たれる子どもさんも多いです。しかし、自閉スペクトラム症の方の社会的コミュニケーションの苦手さは、『ことば』に限られません。例えば、『ことば』は出ていたとしても、困っていることや嫌だという感情を人に伝えられず、部屋を飛び出したり、ぼんやりするといった行動で表現するお子さんがいます。また、困っていることと全然関係のない話をするお子さんもいます。絵を見て名詞をたくさん答えられたとしても、人に対するコミュニケーション手段として『ことば』を使うことができないお子さんが多いのです。

そうした社会的コミュニケーションの苦手さへの支援法として、『ことば』以外の代替手段を活用する方法も考えられています。絵カードなどを渡して自分の要求や思いを表現したり、ジェスチャーによるコミュニケーションなど、様々な方法が考案されています。視覚的に捉えることが得意な自閉スペクトラム症の方にとって、こうした方法は、コミュニケーションが視覚化され、相手に伝えるにはどうすればいいのかが理解しやすく有効だといわれています。また、例えば『手伝って』という絵カードがあることで、絵カードを手渡ししながら「手伝って」と言えるようになるなど、『ことば』の育ちにつながることもあります。

自分のいいたいことが相手に伝えられないという経験は、不全感を募らせやすく、社会性を損ないかねません。一人ひとりに合わせたコミュニケーション方法の学習は、自閉スペクトラム症の方の支援を考える上で非常に大切なことなのです。